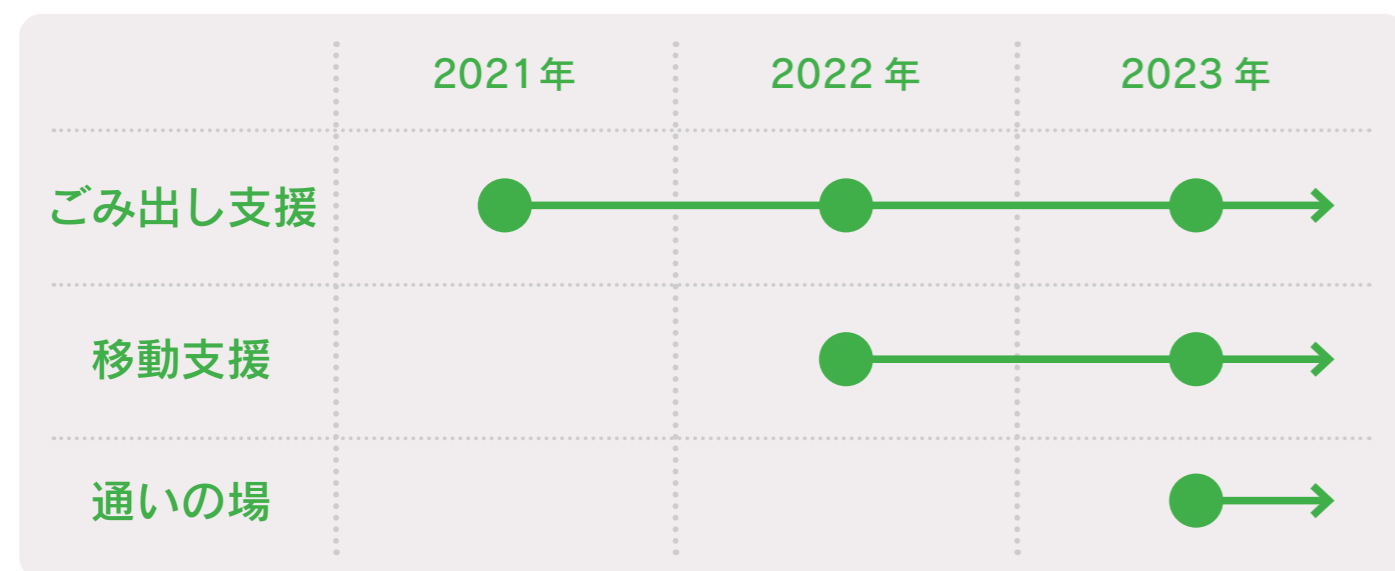


■ 地域支えあいプロジェクト

地域支えあいプロジェクトは、全国の自治体が進める「生活支援体制整備事業」の富士宮市における愛称です。地域や各分野から選ばれた委員で構成される協議体と、それらの運営をサポートする生活支援コーディネーターが配置されています。

協議体は、市内全域を対象とした第1層協議体と、7つのエリアに分かれた第2層協議体の2種類があります。地域から上がってきた具体的な生活課題や事例は、第2層協議体で協議され、解決策が話し合われます。自治会や地区社協と連携して、解決につながる仕組みづくりを検討します。市内全域の共通課題に対しては、第1層協議体で議論され、必要に応じて、行政への提言や広域的な企業との連携などが検討されます。

■ 第1層 これまでのあゆみ



本事業に関する
お問合せ先

富士宮市高齢介護支援課
0544-22-1591

富士宮市社会福祉協議会
0544-22-0054

第1層協議体

市内全域



第2層協議体

大宮西地区

芝川地区

富士根南地区・富士根北地区

大宮中地区・大宮東地区

富丘地区・大富士地区
(富丘・大富士手をつなぎ隊)

上野地区・北山地区

白糸地区・上井出地区

7つの
エリア

(令和6年3月時点)



富士宮市

地域支えあい プロジェクト

プロジェクトだより Vol. 2



富士宮市高齢介護支援課
令和6年4月



**ごみ出し支援を
利用する地区住民**

庭から正面に富士山が見えるこの景色に惚れ込んで、こ

こに30年ほど前に引っ越してきました。ごみの集積所までは、ゆっくり歩いて7分ほど。坂道なので、カーブを引いてごみ出しをしています。

腰を痛めてからは、特に冬場のごみ捨てが大変で、知人に時々頼んだりもしていたのですが、頻繁に頼む訳にも行かない状況でした。ごみ出し支援が本当に助かっています。



藤井裕子さん



青木平区

**ごみ出し支援
地域の支えあいを仕組み化**

高齢になることで、ごみ出しが難しくなるケースがあります。富士宮市の生活支援体制整備事業では、2021年度からごみ出し支援について検討してきました。青木平区では、2ヶ月間のテスト実施を経て、2023年5月からごみ出し支援の支えあいの仕組みが導入されました。あらかじめ登録された利用者は、指定された曜日に、自宅前に専用のごみ箱にごみを入れておくと、シルバー人材センターから派遣された人（この方も地区住民）が車で回収し、最寄りのごみ集積所まで運んでくれます。週1日、燃えるごみを対象に実施されており、月あたり880円。青木平区には、ごみ集積所は3箇所ありますが、住んでいる家の場所によっては、5〜10分ほどの距離になる家もあります。高齢者世帯を中心に、重いごみ袋を集積所まで運んでいくことが難しくなる世帯は少なくありませんでした。近所の人を手伝ってくれるケースもありますが、毎週のこととなると気兼ねしてしまう人も少なくありません。こうした状況を検討する中で、青木平区とシルバー人材センターが協力することになり、ごみ袋の運搬を担う人を、シルバー人材センターの会員と位置づけ、利用する人から利用料を徴収する仕組みとしました。

ごみ出し支援を実施する鈴木さんも、「自分もごみ出しをするついでのようなのだ」と思っている。自分も将来お世話になると思うし、こうした地区の皆さんで支えあっていければよいと思う」と話します。実施から、半年以上が経過し、利用者からも好評です。

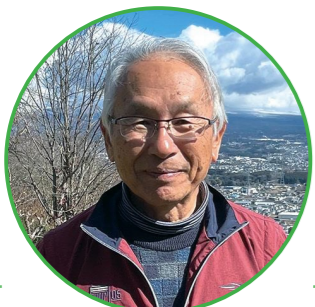
**ごみ出し支援の仕組みを
立ち上げた青木平区役員**

地区の中に、ごみ出しに困っている人は少なくありません。高齢者や障がいのある方だけでなく、共働きや小さなお子さんがいる家庭なども困っているケースもあります。

支えあいの仕組みを今後も持続的に運営していくために、シルバー人材センターに協力いただく形で運営していますが、区内の皆さんにさらに知ってもらい、ニーズのある方にどんどん利用してもらいたいと考えています。



濱田新一さん（副区長）
（ごみ出し支援事業 事務局）



武井信夫さん（区長）



Youtube チャンネル
「宮タクに乗ってみよう」

宮タクの利用には、事前の予約が必要ですが、はじめて利用する人の中には、どこにどのように予約をすればよいか、当日はどのような流れで利用できるのか分からず、不安に思う人も少なくありません。そうした不安を解消しようと、芝川地区社協では、宮タクの利用に関する動画を作成しました。動画では、予約や当日の利用について、実際に利用者の視点に立って説明しており、見た人からもわかりやすかったと好評です。動画は、市の公式YouTubeチャンネルで見られる他、交通対策室などもDVDを貸し出ししています。

〈芝川地区〉

宮タクの利用法に関する動画を作成

〈猪之頭地区・上井出地区〉

路線バスの試乗体験として「ふれあい路線バスの旅」を実施

自家用車で移動することに慣れた人たちが高齢となり、免許返納が必要になると生活は大きく一変します。路線バスを利用することがないという人も少なくありません。身近にある公共交通機関を上手に乗りこなし、買い物やスポーツ文化活動が続けていけるようにということで、猪之頭、上井出地区社協では、路線バスの試乗体験としてふれあい路線バスの旅を企画しました。集まったのは、小学生から90歳代までの地域住民。はじめて利用する人が多く、バス料金の支払い方法を学ぶところからスタート、富士宮駅のロータリーでバス停を降り、エレベーターなどを乗り継ぎ、駅南の大型ショッピングセンターや市立病院の行き方を学びました。参加者からは、「一度も利用したことがなかったのでバスに抵抗感があったが、地域の資源としてこれからは積極的に使っていきたい」という声がありました。



写真：保健福祉部長に提言書を渡す第1層協議体委員長と上野地区の皆さん

上野地区

宮タクの利用が大幅上昇
福祉団体との連携が鍵

免許の返納などで、自家用車を利用できなくなった高齢者の移動支援が地域課題になっています。通院や買い物などで市の中心部へと出たいが、路線バスや鉄道は近くになく、家族や知人に乗せてもらうことも難しい、あるいは気兼ねしてしまうというケースは少なくありません。富士宮市では、こうした地域の移動ニーズを満たすため、宮バスと宮タクが導入されています。利用者は年間1万2千人（2022年度）と年々増加傾向にあります。地域住民の中には、すでに上手に使いこなしている人もいる一方で、まだ利用したことがないという人も多くいます。

生活支援体制整備事業では、2022年度から移動支援を重点テーマと位置づけ、富士宮市全体でどのような課題があるかを検討してきました。検討する中で、特に移動ニーズが高い宮タクの利用可能な地域で、ニーズはあるのに利用につながらない高齢者の存在に焦点を当てることができました。移動支援に関する取り組みを進めていた上野地区社協の協力の下、2023年2月から4月にかけて、モデル事業を実施しました。具体的な取り組みとしては、富士宮市交通対策室による宮タク講座を開催した上で、宮タク

に関する知識をある程度持った住民が、移動のニーズを持っている可能性が高い個人やグループに対して声かけを行いました。期間内は、11名が声かけに協力し、およそ100名程度に声掛けをすることができました。その結果、利用登録者が77名増加、輸送人数も年間1831名（前年と比べ8割増加）と大幅に利用が増加しました。

こうした結果を踏まえ、2024年2月、生活支援体制整備事業では、富士宮市に対し、政策提言を行いました。提言書には、交通対策室と地域の福祉団体との情報共有や協力、地域ごとの移動ニーズを市内で共有するためのプラットフォームの創設、宮タクや宮バスの利便性の向上などが盛り込まれています。

